

ドキュメンタリー映画

「僕らのカヌーができるまで」上映会 & 関野吉晴トークイベント

上原の店が集まってお届けする一夜限りのカフェ
& 上原ワンナイトカフェ

40年間、
地球を這つて
気づいたこと

探検家：関野吉晴

日時 12月4日(日)

14時スタート！

会場 OYAMACHO 18-23

定員 50名（要予約）

※申込みは先着順となります。

空きがあれば当日参加も可能です！

代々木上原

入場 無料

40年間、地球を這って気づいたこと



探検家：関野吉晴（せきの よしはる）

1949年1月20日東京都墨田区生まれ

1967年 都立両国高校卒業

1975年 一橋大学法学部卒業

1982年 横浜市立大学医学部卒業

一橋大学在学中に同大探検部を創設し、1971年アマゾン全流域踏査隊長としてアマゾン川全流域を下る

その後25年間に32回、通算10年間以上にわたって、アマゾン川源流や中央アンデス、ペタゴニア、アタカマ高地、ギアナ高地など、南米への旅を重ねる。その間、現地での医療の必要性を感じて、横浜市大医学部に入学。医師（外科）となった後も、南米通いを続けた。

1993年からは、アフリカに誕生した人類がユーラシア大陸を通ってアメリカ大陸にまで拡散していった約5万3千キロの行程を、自らの脚力と腕力だけをたよりに遡行する旅「グレートジャーニー」を始める。南米最南端ナバリーノ島をカヤックで出発して以来、足かけ10年の歳月をかけて、2002年2月10日タンザニア・ラエトリにゴールした。

2004年7月からは「新グレートジャーニー 日本列島にやって来た人々」をスタート。シベリアを経由して稚内までの「北方ルート」、ヒマラヤからインドシナを経由して朝鮮半島から対馬までの「南方ルート」を終え、インドネシア・スラウェシ島から石垣島まで手作りの丸木舟による4000キロの航海「海のルート」は2011年6月13日にゴールした。

1999年 植村直己冒險賞（兵庫県日高町主催）受賞

2000年 旅の文化賞（旅の文化研究所）受賞

現在、武蔵野美術大学教授（文化人類学）

個人の視点・日本人の視点ではない世界がそこにはあり、先代の人々の発想がどんなにユニークだったり、どんなに不思議だったりということを実感できるはず。自分自身への発見が必ずいくつあるような気がします。

ルヴァン代表 甲田幹夫

ドキュメンタリー映画

「僕らのカヌーができるまで」

公式HP : <http://bokuranocanoe.org/>

アフリカから南米まで、人類拡散のルートを自らの腕力と脚力だけで逆行踏波し、数々の出会いと別れを繰り返しながら自身の目で世界の“今”を見つめてきた探検家・関野吉晴。2009年4月からは日本人の祖先の足跡をたどる旅「新グレートジャーニー」最終章として、インドネシア～沖縄の海洋ルート航海に挑んでいる。

「自然から直接採取した材料だけで、手作りのカヌーを作ろう」。ある日関野は自分が教鞭をとる武蔵野美術大学の教え子達にこう呼びかけた。壮大な計画に夢を重ねた若者達がそれぞれの想いを胸に集い、2008年5月、千葉県九十九里海岸でカヌー造りは第一歩を踏み出した。まずは120kgの砂鉄を集め。木を切り倒す鉄斧を作るため・・・・。それは古代から伝わる素材、伝統技術を巡る果てしないものづくりの旅の幕開けだった。

鉄器、縄、保存食、そしてカヌー。航海に必要な4つの条件を満たすべく、若者達が現代の日本とインドネシアを舞台に奔走する。僕らが手にしたものはなんだろう、それと引き換えに失ってきたものとは。“つくる”ことを通して得られる幾多の気づきに、現在、そして未来を模索する若者達の奮闘を描いたドキュメンタリー。

総合演出

江藤孝治

監督

江藤孝治 / 水本博之 / 木下美月 / 鈴木純一

音楽

ミッキシ

アニメーション

ALIMO

編集協力

斎藤淳一

アドバイザー

山田和也

グラフィックデザイン

島田真帆

プロデューサー

木田沙都紀

WEBデザイン

萱島雄太

出演

関野吉晴、武蔵野美術大学学生・卒業生ほか

（共催）
ルヴァン
GAIA 代々木上原店
Kanbutsu Cafe
Mirayne (ミレイネ)
hako gallery
PIIROINEN
ケース

パン・おかし・フルーツ・ワインなど

〈12月4日(日)のスケジュール〉

14:00～

「僕らのカヌーができるまで」上映会

16:00～

関野 吉晴 トークイベント

*トークイベント・カフェからの

17:00～

上原ワンナイトカフェ

ご参加も大歓迎！

〈MAP〉



-お問合せ / ご予約 -

〒151-0065

東京都渋谷区大山町 18-23 コートアネックス大山町

T : 03 (5452) 3171 M : mail@casedepon.com 担当 : 坂元

OYAMACHO 18-23